

I 自己評価の取り組み

平成28年度の学校評価における自己評価について、園の先生に○・△・×の3段階評価と、記述で記入してもらい、その結果を集計しました。

今回の自己評価の大項目は、下記の通りです。

- ① 保育の計画性
- ② 保育の在り方、幼児への対応
- ③ 教師としての資質や能力・良識・適正
- ④ 保護者への対応
- ⑤ 地域の自然や社会とのかかわり
- ⑥ 研修と研究
- ◎ 一年間を通しての保育の振り返り

各大項目について、それぞれの内容に合わせた評価項目を設け、十分・普通・不十分の3段階評価にして自分の保育を振り返りました。

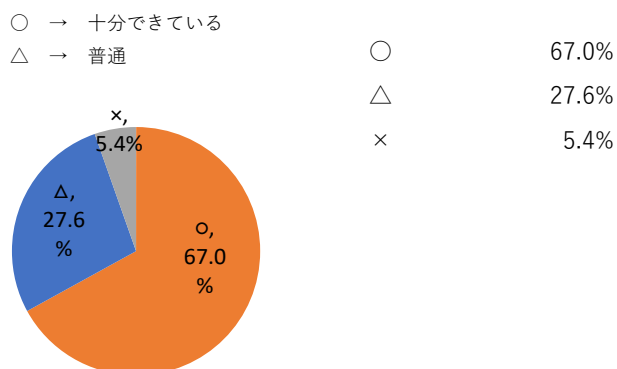
3段階評価	:	十分できている	○
		普通	△
		不十分	×

また、評価をした際の気づきや改善課題をまとめて、今後の自分の保育に活かせるようにしました。

II 28年度自己評価の結果について

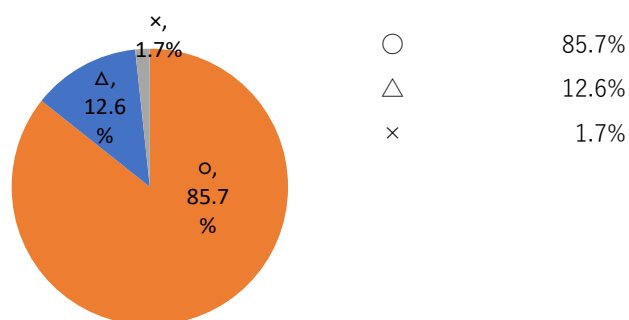
①「保育の計画性」につ 3段階評価による回答結果

教材や活動が多く、日々の保育に追われてしまい、教育理念や方針について理解し、保育にいかすことが難しかった。日々の計画、週案、月案等が計画通りにすすめられなかった。| 預かり保育をするにあたっては、楽しく過ごせるよう配慮した計画を実行できた。| 事前の保育計画の重要性を感じる。また環境への配慮や保育の反省等についても心がけが必要。



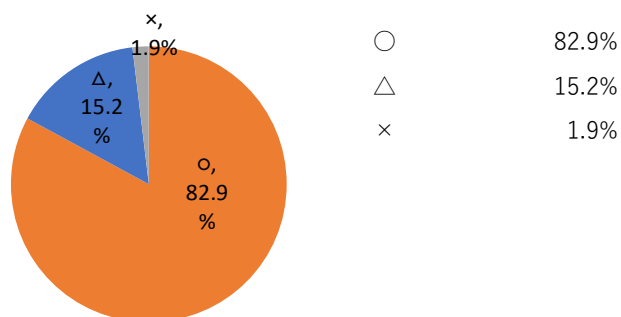
②「保育の在り方、幼児への対応」について

行事や活動を通して、ひとりひとりの子どもの成長につながるよう、課題を与えるように考慮してきた。子ども第一で保育にあたってはいるが、日々の忙しさから、共に遊んだり、一緒に楽しむ時間を確保できない現実がある。また保育の在り方について、教師同士が保育を見せ合ったり、他学年との意見交換をしたりする機会がない。今後の課題となる。



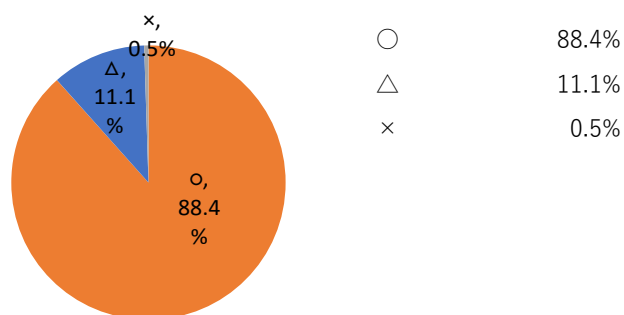
③「教師としての資質や能力・良識・適正」について

子どもに対する言葉づかいや振る舞いについては教師としての自覚を持ち接しているという意見と、指摘を受け見直しながら一年を過ごしたという意見とがあった。また、保育時間外の言動にも気をつけていく必要がある。園全体としての仕事の把握や自らの意見や考えを述べる自信や力がまだ備わっていないと感じている評価もあった。



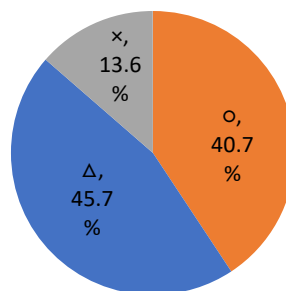
④「保護者への対応」について

直接話をしたり、ミニノートでやりとりする等して、保護者対応を心がけてきた。送迎等で顔を合わせる機会のある家庭とそうでない家庭との差が生じないように配慮をし、保護者の不安に対応している。園の方針と重ねて考えるべき対応については、周知していない部分もあり検討が必要。



⑤「地域の自然や社会とのかかわり」について

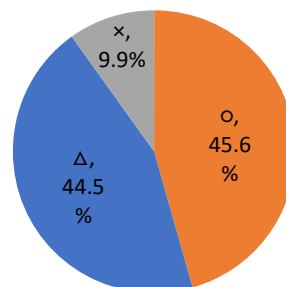
年長の担任は地域社会や小学校との連携を持ち、関わる
ことができたが、その他の学年については、あまり意識がなく
保育の中で取り入れることも少ない。教師自身がもう少し関心
を持ち積極的に地域に関わる計画を立てていく必要を感じる。



○	40.7%
△	45.7%
×	13.6%

⑥「研修と研究」について

研修会への参加は積極的にでき、勉強になったという意見と
参加できる機会がほとんどなかったという意見に分かれた。
長期休暇中の他県での研修会への参加や、定期的な園内研
修等、それぞれの研究課題に見合った研修について、積極的
にのぞむ姿勢をつくっていくことが課題となる。



○	45.6%
△	44.5%
×	9.9%

◎一年間を通しての保育の振り返り

日々の活動や行事が多くある中で、子どもの目線に立ち声を聞き過ごすことで、共感や新たな発見があった。
また子どもたちもたくさんの経験の中で自ら学び、感じ、成長につながることもできた。
一方、日々の保育が行事中心となり、自然に触れたり、充分遊びこんだり、思いきり体を動かしたりする時間を
保育者が確保できないという課題もあがった。保育者自身が心に余裕を持ち、援助したり遊びを発展させたり
しながら、一緒に楽しむことが必要だと実感した。
保育者同士の連携不足な面も反省としてあげられ、その必要性を再確認した。
自己評価をして、改めて計画や準備の大切さを感じたり、保育内容や子どもとの関わり方を見直す機会にも
なった。そして常に研究心を持ち、子どもと共に保育者も学びながら、園生活の時間を共有できるようにしたい。
子どもたちが「明日も幼稚園に行きたい」と思えるよう、笑顔の絶えない場でありたい。

IV 検証結果と改善策、まとめ

今年度は大項目を6項目とし、その中の評価項目として、206項目にわたる内容を○△×の3段階で評価し一年の振り返りをした。

全体的に○の評価が、前年度より上回る傾向にある。保育者ひとりひとりが意識して日々の園生活を送ってきたことや経験年数を重ねてきたこともその要因のひとつと言えるかもしれない。

「保護者への対応」については、唯一○の評価が前年度より多少少ないが、全体的に見ると最も○の評価が高く、対応への配慮を心がけてきたことが感じられる。

②～④は日々丁寧に取り組むことで、○の評価も80%以上を占めている。○の評価が低かった「地域の自然や社会とのかかわり」や「研修と研究」については、機会が作りにくかったことが大きな要因のひとつとなるが、例年評価が伸びないので園内でも意識して積極的に取り組める努力をしていかないとならない。

「保育の計画性」については、幼稚園教育要領の理解から保育の評価・反省まで全職員で共有しながら一層努力していく必要がある。

一年の振り返りの中で、笑顔で…という言葉も多く見られた。

子どもたち・保護者の皆様・そして先生達みんなが輝く笑顔で一年を過ごせるように、自己評価の反省点や課題点を踏まえながら新しい一年を迎えられるようにしたい。